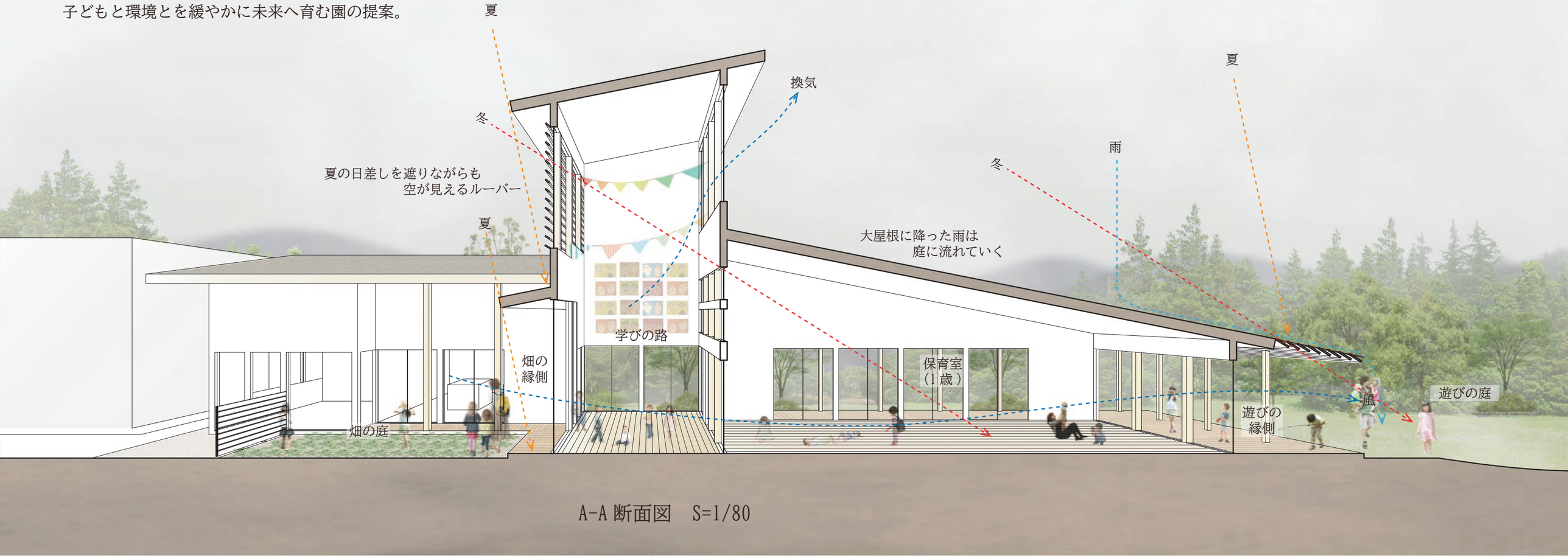
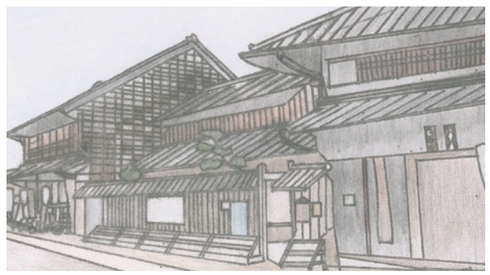
路と庭でつながる　宿場園

人やモノが集まり、次の目的地につなぐ結び目だった宿場町。
宿場町は路と庭と建築で構成されていた。
次世代につなぐ結び目となる現代の宿場町をつくる。
子どもと環境とを緩やかに未来へ育む園の提案。



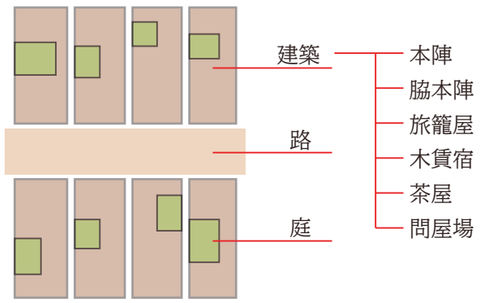
A-A 断面図　S=1/80

01　豊橋と宿場町



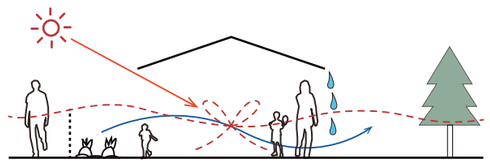
豊橋は、かつて宿場町として栄え、自然と共生しながら発展し、都市と自然の調和した景観が形成されてきました。宿場町には、人やモノが集まり、次の宿場へ繋ぐために機能していました。

02　宿場町の構成



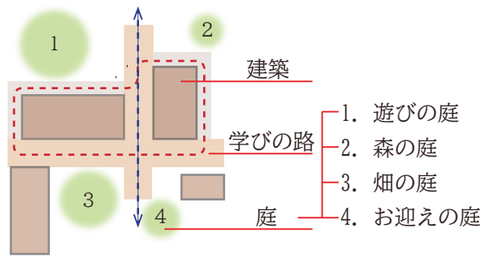
豊橋の宿場町は、路、建築、庭で構成されていました。この３つによって街の余白が宿場町には創出され、人々や環境との交流拠点として使われていました。それは、次の目的地に人やモノをつなぐための街の結び目となっていました。

03　宿場町のような保育園



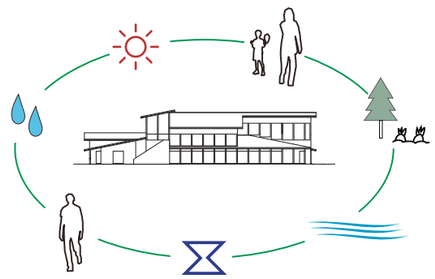
かつての宿場町のように、人や環境を集め、次の世代につなぐための結び目となる保育園を目指します。自然と共生しながら子どもたちの健やかな成長を目指し、教育活動を支える園舎を創出します。

04　路と庭による余白を持つ園舎

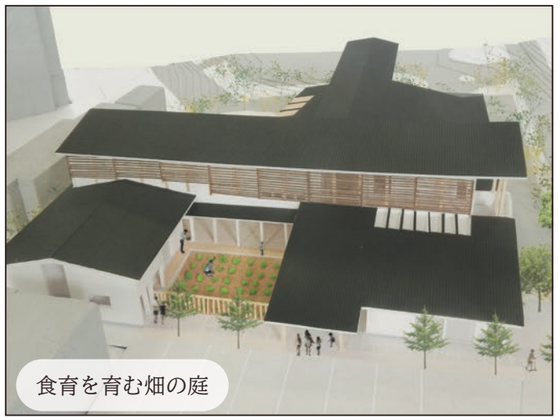


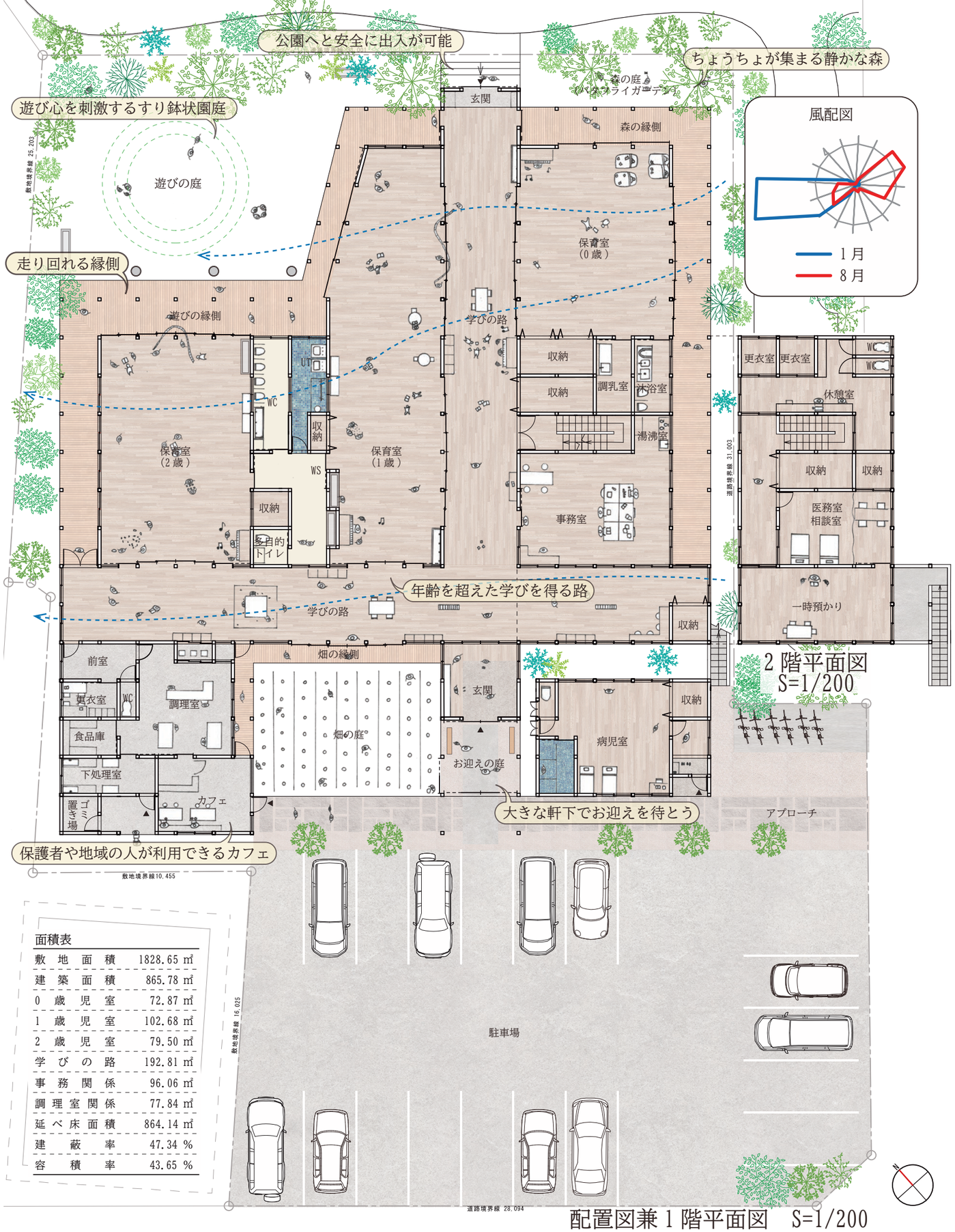
路、建築、庭を敷地内に設けることで回遊性を持たせると共に、多様な空間利用のできる余白を設けました。土や水、虫など「本物に触れる」ことができる園舎を創出します。さらに、区画を設け保護者や地域との交流を生み出します。

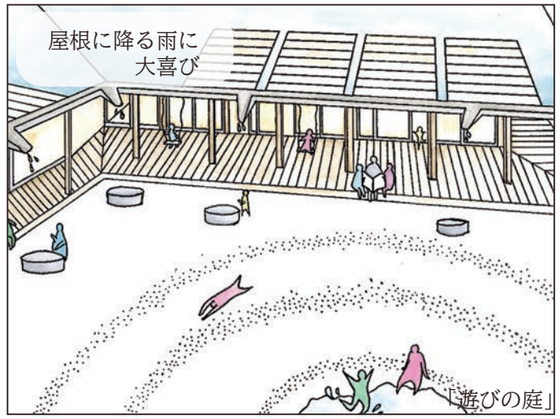
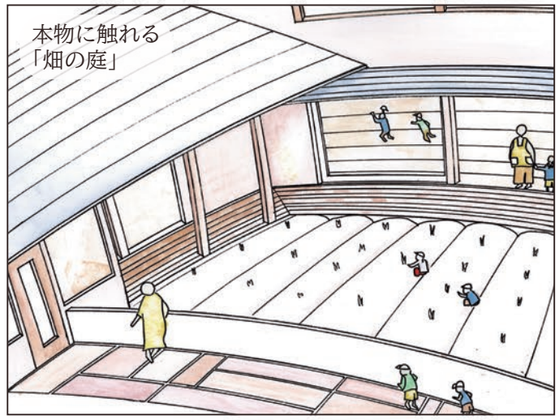
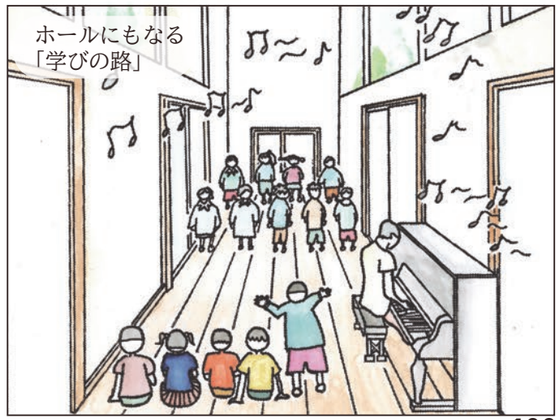
05　風土と共に育つ園舎



余白を設けることで、風土と共に育つ園舎となります。余白は、園に関わる多様な人、自然環境、文化、芸術を受け入れ共に育つために機能します。さらに、時と共に風合いを醸し出す素材を活用することで、園舎自体も共に育ちます。





面積表

敷地面積	1828.65 ㎡
建築面積	865.78 ㎡
0歳児室	72.87 ㎡
1歳児室	102.68 ㎡
2歳児室	79.50 ㎡
学びの路	192.81 ㎡
事務関係	96.06 ㎡
調理室関係	77.84 ㎡
延べ床面積	864.14 ㎡
建蔽率	47.34 %
容積率	43.65 %